

熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

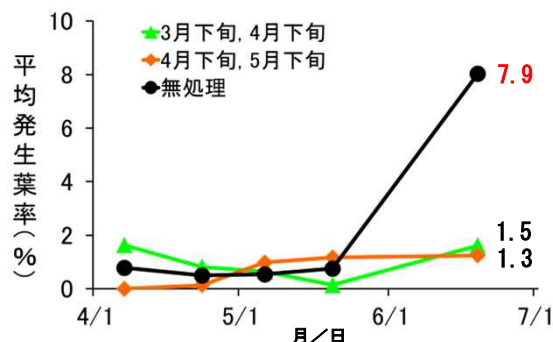
2016

ナシのモザイク症状は展葉初期から新梢新長期までの2回防除で軽減できる



左：モザイク症状

右上：ニセナシサビダニ
右下：早期落葉状況



図：防除時期の違いがモザイク症状発生に及ぼす影響

問 研究のねらいは？

答 平成22年に県内で初確認されたナシのモザイク症状は、ニセナシサビダニによる被害です。従来の症状（さび症状）とは異なり、モザイク症状は、新梢が被害を受けやすい展葉初期から新梢伸長期（3月下旬～5月下旬）に発生し、症状が甚大な園では6月中下旬には早期落葉します。そこで、被害を軽減できる薬剤防除適期と有効薬剤を解明しました。

問 優れている点は？

- 答
- ① モザイク症状は、3月下旬と4月下旬または4月下旬と5月下旬の2回の薬剤防除によって軽減できます。
 - ② ニセナシサビダニに既に農薬登録のある薬剤（3剤：サンマイル水和剤、コテツフロアブル、ハチハチフロアブル）で高い防除効果が得られます。また、早期落葉も抑制されます。

問 普及するうえで注意する点は？

- 答
- ① 前年に被害が多発した園地では、3月下旬から防除を行うなど、被害程度に応じて防除時期を選択します。
 - ② 被害多発園では、前年に薬剤防除で被害を抑制しても、翌年無防除であれば再び被害が拡大します。連年防除を実施し、効果的な被害軽減を図りましょう。